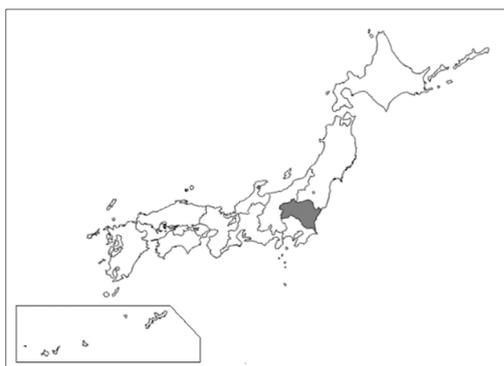


### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

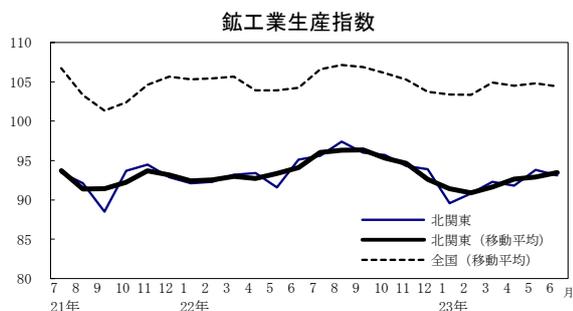
#### 前回からの主要変更点

	前回 (令和5年5月)	今回 (令和5年9月)	
雇用情勢	持ち直している	<u>改善の動きがみられる</u>	↑

#### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4－6月期の鉱工業生産は、前期比2.2%増となった。月別にみると、4月は「汎・生産・業務用機械」が減少したこと等により前月比0.5%減、5月は「輸送機械」が増加したこと等により同2.2%増、6月は「輸送機械」が減少したこと等により同0.7%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
石油・石炭、化学、プラスチック	20.1	▲1.7	▲1.4	▲0.3	▲1.3	1.1
輸送機械	18.3	▲7.9	8.6	▲0.7	10.8	▲8.0
汎・生産・業務用機械	17.1	▲3.5	4.2	▲3.2	5.7	0.0
食料品・たばこ	12.1	▲3.0	—	▲0.5	1.1	—
電子デバイス、電気・情報通信	11.2	▲6.8	1.2	3.4	▲2.1	2.8
鉱工業	100	▲3.9	2.2	▲0.5	2.2	▲0.7

- (備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。北関東の最新月は速報値。  
 2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。  
 3. 北関東は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 4－6月期、6月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。  
 3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

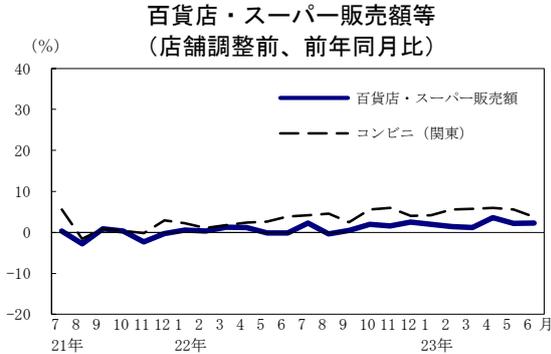
個人消費は持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

4－6月期は前期比 0.1%増となった。月別にみると、4月は前月比 0.7%減、5月は同 0.5%増、6月は同0.8%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4－6月期は前年同期比 2.7%増となった。月別にみると、4月は前年同月比 3.6%増、5月は同 2.2%増、6月は同 2.3%増となった。



	2023年4-6月	2023年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.1	▲0.7	0.5	0.8
百貨店・スーパー(*2)	2.7	3.6	2.2	2.3
コンビニ(*3)	5.1	6.0	5.6	3.8
乗用車(*4)	24.8	21.2	31.7	22.6
(季節調整値) (*4)	8.4	8.4	1.2	1.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

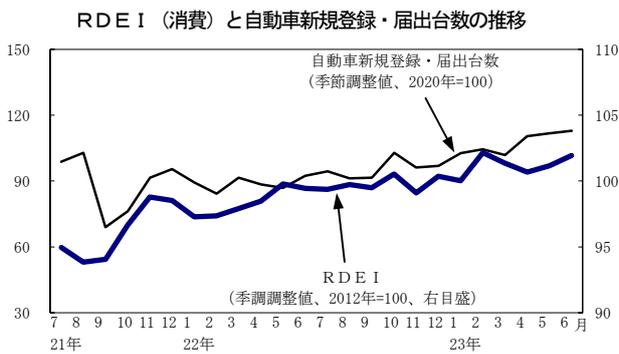
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

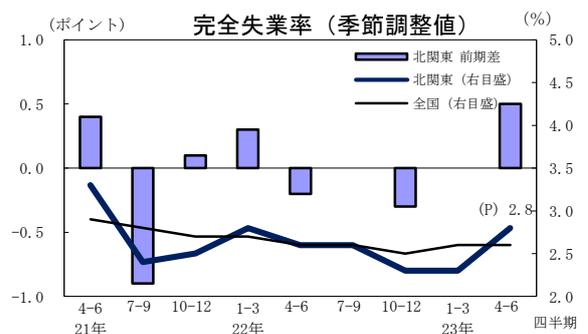
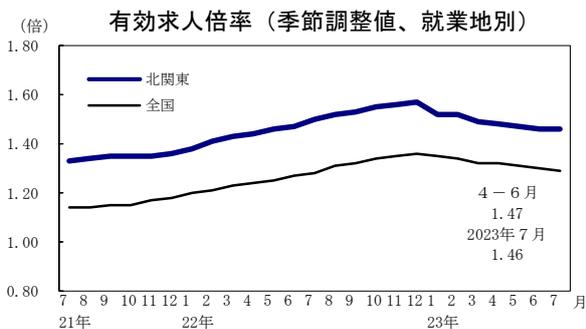
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

2. 4-6月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年7月調査）景気判断理由の概要

3. 北関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連	○	・このところ、特に、月末に近づくほど猛暑日が続いて、冷たい飲料、アイスクリーム等が大きく伸び、購入客もかなり多い（コンビニ）。
		□	・マスク着用者は依然として多いものの、人流は活発になっている。化粧品やアパレル等の外出関連商材は、引き続き堅調に推移しているものの、大幅なプラスには至っていない（百貨店）。
		▲	・生活必需品や公共料金の値上げが相次いでいるなか、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されてはきたものの、この夏の異常な暑さもあって、街中の人出も店への来客数も激減している（商店街）。
	企業動向関連	□	・受注量は減少傾向である（金属製品製造業）。
		○	・高水準の受注が続いているものの、人手不足が原因で協力工場の生産能力が上がらず、綱渡りの納入が続いている（一般機械器具製造業）。
▲		・年度初めから、工事量が足りない状況が続いている（建設業）。	
雇用関連	□	・人材募集の依頼は増えているものの、求職者の確保が追いついていない状況が続いている（人材派遣会社）。	
	◎	・求人数が前年比 1.5 倍になっており、景気回復を顕著に感じている。特に、製造業と観光業が増加している（学校〔専門学校〕）。	
	○	・新規求人数の前年同月からの増減率が、3か月前と比べ連続して微増で推移している（職業安定所）。	
その他の特徴コメント			○：前年までは、全国の祭りが中止になっていた。今年はほとんどの地区で祭りが再開され、例年にないほど祭り関連の客が増えてきている。そのお陰である（衣料品専門店）。 □：受注は堅調に推移しているものの、受注残が増えていない（乗用車販売店）。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計動向関連	□	・季節要因で、7月はやや上向き感が出ているが、今後の予測は不透明で楽観視していない。当面は来客数の減少を単価の上昇分でカバーする現状の傾向が続く（住関連専門店）。
		○	・秋以降も近隣地域でのイベントや同窓会、忘年会等の団体での宴会場利用が増えてきている（都市型ホテル）。
	企業動向関連	□	・新型コロナウイルス感染対策の行動制限もなくなり、キャンプ用品、テント、テーブル、チェア、バーベキュー用品等のレジャー用品の物量は、お盆頃までは前年並みを確保予定である。しかし、燃料価格の高騰も続きそうなので、利益は薄くなりそうである（輸送業）。
		○	・従業員給与のベースアップを行ったため、人件費は増えている。ただし、継続して行っている取引先への値上げ交渉もほぼ計画どおりに進んでいるため、収益は微増の見込みである（不動産業）。
雇用関連	□	・先の人材の依頼が減っている（人材派遣会社）。	
その他の特徴コメント			□：消耗品や必需品の需要は安定しているものの、嗜好品に対する需要は伸びにくい傾向がある（家電量販店）。 □：シルバーウィーク等、人が動く要素があるため、何となくだが、今後も変わらずに人は動くのではないかと予測している（一般レストラン〔居酒屋〕）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北関東）の推移（季節調整値）

